

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ES11A010	教員のための人権教育の理論と方法(Theory and Practice of Human Rights Education)					共通科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 雪丸武彦、小池一彦 E-mail 内線						
授業の概要	本授業科目では、人権教育の基本的事項や子どもの人権、教育実務における留意事項をより実質的に理解するための原理を理論的に学ぶとともに、人権教育の授業づくりの事例を題材とした演習に取り組むことで、現状の課題を発見し、具体的な対応策を立案・検討する能力を養う。 また、現代の教師・子ども関係の在り方についての最新の理論を習得し、演習を通じた双方向的な学習によって実践的な力量を構築する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	人権教育の基本的事項について深い理解を有し、学校現場の事例を題材として現状の課題を発見する。											
目標2	人権教育の授業づくりに関する実践的知識について深い理解を有し、学校現場の事例を題材として現状の課題を発見する。											
目標3	子どもの人権と教育実務における留意事項に関する実践的知識について深い理解を有する。											
目標4	現代の教師・子ども関係の在り方に関する実践的知識について深い理解を有し、現状の課題を発見する。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容	1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解 2 人権教育の基本事項に関する講義 3 子どもの人権と教育実務の基本事項に関する講義 4 人権教育に関する授業実践事例の分析 - 身近な課題から考えた授業例 5 人権教育に関する授業実践事例の分析 - 社会的な課題について学んだ授業例 6 人権教育に関する授業指導案の立案 - 授業のねらいと手立ての構想 7 人権教育に関する授業指導案の立案 - 評価観点の設定 8 人権教育の模擬授業と討議 9 人権教育に関する授業計画の改善 10 子どもの人権の侵害と対応事例の分析 11 子どもの人権の侵害と対応事例の分析 12 人権に関わる事案に対する対応マニュアルの分析 13 人権に関わる事案に対する対応マニュアルの立案 14 人権に関わる事案に対する対応マニュアルの考察 15 学習成果の発表と総括											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	ミニッツペーパー, 時間外学習, 調査, 話し合い			工夫	その他の						
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修 事後学修											
教科書	特になし。授業中に指示する。											
参考書	人権教育の指導方法等に関する調査研究会議「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」2008年。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度, 課題に取り組む姿勢, 討論への参加など)	60%										
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	40%										
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。 また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教を請うこと。											
備考	院生による人権意識に関するアンケート回答に基づき、現職院生と学部卒院生の双方の回答結果を対照し、その分析を検討し合うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。											
リンク	URL											